

小学校教師が考える「音楽をつくる活動における『創造性』」 —質問紙調査をもとに—

古山典子（初等教育学科），国府華子（愛知教育大学）

“Creativity” of The Creative Music Activity That Elementary School Teachers Think About

Noriko KOYAMA (Department of Elementary Education),

Hanako KOU (Aichi University of Education)

抄 録

小学校教師を対象とした質問紙調査の回答を分析した結果、音楽科において創造性の育成は重要であると考えられているが、音楽をつくる活動だけではなく、歌唱、器楽、鑑賞の各活動においても育まれるものであると捉えられていることが明らかになった。なお、教師が創造性を語る際に多く用いているキーワードとしては、「イメージ」「楽しい」「工夫」「ふし」「友」「選ぶ」「試行錯誤」「探す」などが挙げられた。自由記述回答での、他者のよさを認める姿や共に作り上げていく姿に創造性を見出す回答内容からは、学校教育固有の「創造性」の存在も感じられた。一方で、創造性について、それを育む以前に何かを身につけていなければならない、と考えていたり、小学校の段階では創造性を身につけることが困難である、と捉えている教師も存在していた。また、教師は「創造性」を、結果としての作品ではなく、既存の知識やイメージをもとに、音を組み合わせたり、工夫する姿、他者と音を介して関わる姿に見出す傾向があった。

キーワード：創造性，音楽，小学校教師，音楽をつくる活動